

「舗装」の意味に就て

江 守 保 平

我國も昨今漸く各地に道路改良事業が勃興し舗装道路も

次第に普及されんとしつゝある今日「舗装」と云ふ字句の意味が曖昧であるため兎角曲解され勝ちであるのは甚だ遺憾である。

「舗装」と云ふ語が始めて我國に用ひられたのは大正八年公布の道路法及びその關係法規に於てであるが此字句は當時内務省で稿を草された牧彦七博士の造られたもので Pavement Befestigung, Parage 等が即ち之に當る。

「舗装」とは何であるか。簡單に云ふならば道路をして交通に堪えしむるためその表面に造り上げた人工的の皮殻である。此舗装の中にはその性質により高級なもの簡易なもの及び兩者の中間に位する中級のものも含まれることに

なる。

「舗装」はその路盤の強弱、交通量の多寡等により特に人工的の基礎を伴ふ場合と全く之を省いてしまふ場合とがあるが何れの場合に於ても斯くして路表面生じたる人工的の皮殻全部が「舗装」であることに變りはない。

米國道路界に於ける或一派は「舗装」の意味を非常に窮屈に解釋し表面にある薄い表層のみを「舗装」と解釋し此下に本體として存在する碎石層や混凝土の基礎は「舗装」とは全然別個のものと考へてゐる。

之は澤山の用語を扱つて行くうちに餘儀なく到達した解釋法であるが恰かも發芽を矯められた盆栽の様なもので要するに發育不十分な解釋法と云ふ外はない。然るに我國に

も此解釋を金科玉條と考へ之を遵奉してゐる技術者もある様であるが非常識も甚しく漸く順調な發育の途にある我道路技術界のため甚だ悲むべきことである。昭和通りの舗装を見て上の薄いアスファルト層のみが舗装であつて下にゐる厚い混泥土層は舗装でないと云つたつて誰が承知するものであらうか。

「舗装」としては牧博士の與へられた定義「天候の影響を受けることなく各種各様の人馬諸車の通行に對し歩車道兩面を充分丈夫に且つ鞏固になす目的を以て、特に舗設したる路面の舗甲にして勿論基礎層を含むものである。」が先づ我國での標準と見れば間違ない。

舗装に於てその施工の難易、又は工費の高低などから我國で便宜上「高級舗装」「簡易舗装」などの語が用ひられて居るが、常用語としては何れも便利な名稱である。尙近來此二階級の何れにも入れることの出来ない中間の工種が一般に用ひられる様になつて來た。在來路盤上に直接舗設したアスファルト舗装や又簡易なセメント、コンクリート舗

装が即ち之である。此グループのために私は「中級舗装」と云ふ名稱を與へたいと思ふが之は *Mittelschwere Decken* にあたるものである。

此三つの舗装階級の名稱は何れも便宜上のものであつて學術語ではないからの確な定義を下すことは今その時機ではないが大體何物であるかを示すため現在我國で行はれてゐる各舗装工種を之にあてはめて見ることにする。

「高級舗装」人工的基礎を有するアスファルト舗装。膠石

舗装、鋪木、鋪石、煉瓦舗装等

「中級舗装」人工的基礎を有せざる「アスファルト舗装」、

及びセメント、コンクリート舗装等

「簡易舗装」瀝青路面處理道、瀝青マダカム等

大方諸賢の御批判を乞ふ。